

## 社団法人日本ビリヤード協会 24 年度事業報告

### 1 震災に関して

いったん 3 月で集金し、赤十字に送金。期限を区切らず続ける。

現時点で 720, 929 円を赤十字に送金済みです。

### 2 組織

日本協会は、複数の県体協加盟がないと準加盟の手続きがとれません。県協会の皆様にはぜひ県体協加盟申請の手続きをお願いいたします。NBA には体協加盟助成金がありますのでこれを利用し積極的に体協加盟に取り組んで下さい。

24 年度には NBA 本部が日本体協に加盟する予定です。

数回打ち合わせ面談をしましたが 24 年度中には完了しませんでした。

### 3 普及事業

ビリヤードによる高齢者の体力・健康づくりということで、テーブル寄贈、講師派遣などを続けて参りました。高齢者に対する普及は地道でしたが、国体誘致に対し非常に効果があり、活動が実を結んだとも言えましょう。高齢者と若年層は今後もビリヤードの普及における両輪となります。

#### 高齢者への普及

協会のアピールとしては適切な運動量と、頭を使うことによる認知症防止、コミュニケーション等があります。現在増えている高齢者施設では、入居者のニーズに応える姿勢をとっており、その中にビリヤードも入っているようでいくつかの問い合わせもありました。講師派遣依頼がくればできるだけ協力お願いします。公共の高齢者施設には全撞工の協力でテーブル貸与・贈呈を続けてゆきます。

#### 若年層への普及

児童館などからオファーが来れば極力受けるようにして下さい。

いずれも、一度二度はボランティアでも、度重なるようでしたら本部にご相談ください。多少の補助はできますが、基本は支部としてもやらなければならない事業です。協会所有のミニテーブルは、引っ越し便で送ることができますので、各地のイベントで使うことは可能です。

BCJ よりミニテーブル寄贈を受けました。各支部で普及のため使用します。25 年度に入ってからですが、やはり BCJ から入門冊子の寄贈を受けました。

## 学校対抗

日本一を決める競技会ですが、学生層の充実を図る目的もあります。補助金を支給してくれる学校も出始め、又優勝旗を学生課で1年間保管していただけた年もありました。学校側が名誉と思ってくれているわけで、大きな前進です。良い大会を続けてゆくことは更なる前進につながります。

しかしこの2～3年の各地区の状況を伺いますと、予選参加チームが減少傾向にあるようです。震災で中止となりましたが、第11回大会は大幅に定員割れの20校出場という寂しいものとなりました。本年も定員割れの20校です。学生のビリヤード離れに歯止めをかけなければなりません。

NBAの基本的事業方針には反しますが、関西地区で予選はCSの取得免除、予選通過者のみ取得を義務づける、という試みを理事会で許可しました。その結果予選参加数が増えました。長い目で見れば正解かもしれません。あらゆる手段を使っても学生層を充実させなければなりません。

普及事業も、ビリヤード協会が永久に続けてゆかなければならない事業です。

## 4 選手強化

国際大会の活躍のみならず、長期的にアマチュア、ジュニア層などの選手強化事業を確立させなければなりません。そして選手強化の延長としてワールドゲームズやインドア・東アジア大会の代表選考を取り入れてゆくことができれば、選手選考に関する大きな参考となるでしょう。

赤字予算のため極力事業規模を縮小したため活動はごくわずかでした。

## 5 ジュニア

ここ数年日本のジュニアクラスは層・レベルと共にかなり充実していましたが、その充実したメンバーが徐々にジュニアを卒業し、世代交代を迎えています。このクラスは常に新メンバーが登場していないといけないのですが、全国的に選手層が薄くなっているのが現状です。タレント発掘も協会の重要な仕事であり、また、ジュニアの充実はそのまま普及にもつながります。またジュニア・学生層への普及は体協加盟や地区教育委員会とのつながりが有効な手段であり、組織の発展ともつながりをもってきます。

ジュニアオリンピックカップは定員に満たず。しかしかろうじてトップクラスのレベルは従来に近い状況です。世界大会にプール男子2名、女子1名、スリークッション1名をJOCNF強化事業の助成で派遣しました。

6 国体記念大会・スポレク

スポレクは昨年度で終了しました。

国体は平成 27 年和歌山まで参加が決定しています。28 年岩手は未定です。

東京国体記念大会と岐阜国体は無事終了しました。岩手も決定です。  
今後の予定は、25 年東京、26 年長崎、27 年和歌山、以降岩手、愛媛、福井、茨城、鹿児島、三重と続きます。来年からこの項目よりスポレクの文字は外します。

7 大会開催・・・トーナメントスケジュールによる。

※本年度東京で世界レディーススリークッション選手権を開催します。詳細は未定。

世界レディーススリークッション選手権開催。収支は全て実行委員会によるもので、本年度の決算書には反映していません。

8 大会派遣・・・例年通り世界選手権に代表を派遣。

本年の報奨金対象者は世界 9 ボール選手権 3 位、大井直幸、世界レディーススリークッション選手権優勝、東内那津未、同準優勝、西本優子、同 3 位、林奈美子、福本綾香の 5 名です。

9 法人制度の変更について

すでに半ばを迎えている法人制度の変更期間ですが、NBA は公益社団法人として申請することになります。今年度申請します。

平成 25 年 6 月 12 日の理事会を経て 6 月 13 日に現行定款の変更を申請しました。  
7 月には公益法人認定の申請をする予定です。

10 各種委員会

アンチ・ドーピング委員会

実際に検査対象となるトップ選手の属する JPBA と JPBF、そして NBA 本部で構成した委員会で活動しています。今年度は 3 大会で 8 検体の検査を予定しています。それにとまなう TOTO の助成は申請済みです。

全日本スリークッション、全日本レディーススリークッションで各 2 検体。世界レディーススリークッションで 4 検体、計 3 大会で 8 検体の実績です。また 25 年度のアジアインドアゲームズの派遣前検査のため、派遣候補選手に冊子配布。47 都道府県の薬剤師会一覧が掲載してあり非常に有用な物です。またジュニアオリンピックカップの際、JADA より講師を派遣していただき将来の有望選手にドーピングの知識を身につけてもらいました。

## 新法人移行委員会

前出。

## CS 委員会

実際に回転しているシステムにつき、急激に大きく変更することは不可能です。登録倍増を目指し大幅変更の新システムを企画中です。試合に必要なカードではなく、価値を付加したビリヤードファン必携のカードを目指しています。

委員長が関西支部を訪問し、説明会を開きました。

## 助成金審査委員会・選手選考委員会

必要に応じ開催します。

## 助成金審査委員会

委員 2 名につき電話で会議。長崎の助成を検討。

## 選手選考委員会

前例を踏襲しアジアインドアゲームズの予選会を開催しました。

## 協力金委員会

長い間の懸案であった協力金(旧オリンピック基金の発展系)システムが完成しました。今後本委員会で請求および集金業務、そして助成審査を担当します。1 年が経過しシステムの完成度の高さが検証されました。

一部納入の期限が遅れるところもありましたが概ね順調です。詳しい数字は決算報告書と NBA ホームページに公開してある協力金収支簿を参照してください。ただし決算は 3 月、協力金収支簿は 12 月です。